

カトリック六甲教会 教会報

2008

2

No.434

2月の予定

| | | 教会暦 | 教会行事 |
|----|---|-------------------------------|--|
| 1 | 金 | | 初金 7:00 10:00 ミサ |
| 2 | 土 | 主の奉献 | |
| 3 | 日 | 年間第4主日 | 14:00 結婚準備セミナー開始(24日まで) 17:00 海星病院 集会祭儀 |
| 5 | 火 | 日本26聖人殉教者 | |
| 6 | 水 | 灰の水曜日(大斎・小斎) 四旬節愛の献金(四旬節中) | 7:00 10:00 19:00 ミサ (各ミサ中に灰の式) |
| 10 | 日 | 四旬節第1主日 | 病者の秘跡(全てのミサで) |
| 11 | 月 | 世界病者の日(ルルドの聖母) | |
| 15 | 金 | | 10:00 集会祭儀 と 十字架の道行き |
| 16 | 土 | | 09:00 拡大小教区評議会 10:30 哲学講座(六甲学院生徒研修所) |
| 17 | 日 | 四旬節第2主日(洗礼志願式) | 13:30 東ブロックの会と神戸地区の役員会 |
| 18 | 月 | | 14:00 三日月会ミサと例会 |
| 22 | 金 | 聖ペトロの使徒座 | 10:00 四旬節ミサ と 十字架の道行き |
| 23 | 土 | | 10:00 祈りの道場(~15:00 ミサ) 14:30 教会学校 ホールミサ |
| 24 | 日 | 四旬節第3主日 | 17:00 海星病院 集会祭儀 |
| 25 | 月 | | 11:00 ベビーとママの集い |
| 29 | 金 | | 10:00 集会祭儀 と 十字架の道行き |

「信徒の教会」になるために

今年もらった年賀状の中に次のようなメッセージがありました。「今年は、六甲教会が信徒の教会になるように祈ります。」

事実、世界中のカトリック教会には神父が少なくなり、教会に居る神父も年をとってきました。自然にカトリック教会は信徒のものになるでしょう。しかし、司祭が少なくなることについて、神は何をおっしゃっているのでしょうか？ 神からのメッセージは何でしょうか？ 私たちは何を受け入れるべきなのでしょう？

現実として、今年は六甲教会が信徒の教会と

なるための出発点と捉えてはどうでしょうか？

今までは、教会の運営は司祭が中心となって行われてきました。確かに、司祭にしかできないミサが教会の中心だからです。

洗礼者ヨハネは牢の中からキリストの元の人に人を送り、尋ねさせました。「来るべき方は、あなたでしょうか。それとも、ほかの方を待たねばなりませんか。」そしてイエスはヨハネについて語り、言われます。「知恵の正しさは、その働きによって証明される。」(マタイ 11-3~19)

私たち信徒は福音を実現していますか？
今のところ、司祭だけに限られている、司祭にしかできないことは、ミサを行うことと告白を聞くことだけです。私にできることはそれだけです。本当に限られています。それに比べ、信徒のできることはどんなことがあるのでしょうか？ それぞれが自分の場所で働いています。それでも、実際に今のところ、その働きは充分ではありません。歴史的に見て、

いつの世も、信徒は自分の役目を意識しているとはとても言えません。

どうすべきか？ 自分に与えられている使命をどう果たすべきか？ 今年の四旬節に神からのメッセージに耳を傾け、祈りの中で、神との語らいの中で、考えてみて下さい。教会を自分たち信徒の教会になるように、何をすべきか？ 何をしなければならないのか？ (コリントス神父)

各 部 会 だ よ り

👉 婦人会

2月6日(水)は「灰の水曜日」です。四旬節の始まりです。40日の祈りと節制をする期間です。

キリストの受難を偲びながら、復活祭の大いなる喜びに向かいましょう。

1月18日(金)婦人会新年会を盛会の内に終えることができました。会を盛り上げて下さいました3人の神父様、参加下さいました会員の皆様に心より御礼申し上げます。今後とも深い霊的なつながりを持って、婦人会活動を行って参りましょう！

会費納入について

2008年度(2008年4月~2009年3月)の会費納入は4月からです。新しい納入袋を皆様の状差し(教会維持費袋入れの状差し)へ入れます。その袋に入れてお納め願います。

既に納められた方は、お預かりしておりますのでご安心下さい。

【聖堂当番】

- ・2/3(日)ミサ後、中高生会
- ・8(金)西5、中1・2
- ・15(金)3・4・5
- ・22(金)午後1班



👉 三日月会

【例会】2月18日(月)14時ミサ~16時
講演：三浦優子氏「グレゴリオ聖歌」
ビデオ鑑賞

【喫茶】2月3日(日)9時ミサ後~13時
於：イグナチオ ホール

👉 青年会

【例会】2月10日(日) 24日(日)
12時30分~ 於：第5会議室
内容：聖書を読んで分ち合い等
初めての方もご参加下さい。

👉 教会学校

- ・2月2日(土) 通常クラス
- ・2月9日(土) 通常クラス
- ・2月16日(土) 通常クラス
- ・2月23日(土) ホールミサ

👉 養成部

哲学講座 奥村 和滋 先生

- ・日 時：2月16日(土)10:30~
- ・会 場：六甲学院生徒研修所
- ・受講料：一般1,000円、学生300円

祈りの道場 英 隆一郎 神父

- ・日 時：2月23日(水)10:00~15:00
15:00からミサ
- ・会 場：六甲学院生徒研修所

「六甲教会評議会規約改定委員会」から

委員長 鈴木

2006年に大阪大司教区より年内に各小教区の評議会規約を提出するようとの要請がありました。当時の議長として従来からあった六甲教会の小教区評議会規約を提出しましたところ、2007年の7月に、これについて以下のような厳しい指摘と指導内容が送られてきました。

指導項目の要約

この規約は根本的な変更を必要とする。

それ以前に六甲教会の共同体のあり方を根本的に改革しなければ、現代に望ましいものとはならない。刷新された運営組織が新規約に反映されるように。

評議会では司祭、修道者、信徒が同等の立場で意見をのべ、聖霊の導きがどこにあるかをお互いに聞き取り、教会の活動や運営の基本方針を打ち出すことを目的とする。組織としては「信徒会」よりも「専門部会」が中心になって担当、実践するべきではないか。評議会に「信徒会」構成員が多いのではないか。

専門部会の中に「宣教部」と「司牧部」が存在しないというのは考えられない。信徒によるカテキズム・クラス、洗礼にまで人を導くという発想がないのか、病人訪問、聖体奉仕、司牧を司祭まかせて良いのか。

評議会での表決は司祭を除く評議員の過半数で得た結論を主任司祭が承認、同数なら主任司祭が決める。

議長、評議員は総会で承認とあるが現実的ではない。重要決定、任命は常に主任司祭の権限である。

総会は決議主体にはなりえない。決議は主任司祭の承認のもと評議会で行なわれる。重要事項に関しては総会の意見をあらかじめ諮り、それを参考に評議会でも審議する。

以上のような指導をうけて、「発想の転換をもって改革に取り組む」ことになりました。主任司祭と相談し、委員会のメンバーは、主任司祭、現在の評議会議長 高山氏、壮年会会長 川合氏、婦人会会長 山本氏、地区会コーディネーター 林氏、神戸地区養成委員 藤原氏、前年評議会議長 鈴木、以上7名で9月27日に第一回会合を開き、まず全員で「規約改定委員会」の趣旨を確認し、指導に沿った改定を討議しました。

第二回会合では「六甲教会の組織」を見直しました。「宣教部」「司牧部」は存在しないが、養成部を中心として、典礼、社会活動、広報、行事、施設管理、などの各部は本来「宣教司牧」を目的として発足しそれぞれ活動をしてきたが、もう一度意識を改革する必要があるのではないかという意見になりました。

第三回会合では「信徒会の組織」について審議しました。「壮年会」「婦人会」「青年会」などは、六甲のように信徒数が多い教会では組織の基本として必要である、ただし教会活動は従来から専門部会が中心でやってきたので、更なる連携と支援が必要であるという結論でした。

専門部会の名称を「宣教司牧専門部会」と改め、教会学校、中高生会を入れる。また「宣教部」を組織に明記し、入門講座、勉強会、結婚セミナー、ベビーとママの集いなどを統括する。信徒はいずれかの部会に所属し、教会活動に参加するように勧める、という結論になりました。

第四回会合では教区司祭評議会にだされた「教区 養成部門 基本計画(案)」について六甲の現状に照らして振り返り、信仰共同体について議論しました。基本計画には「教会共同体のあり方が司祭などによるトップダウン型の組織ではなく、協働型のリーダーシップのもとで司祭・修道者・信徒が役割は異なっても、平等に責任を担いあう共同体を作り、進めることがいま特に必要である。」と書かれています。これに関しては新年号の「主任司祭からの大切なお知らせ」の中で六甲教会のあるべき姿として具体的に提案されました。

以上この委員会は今後の六甲教会が目指す基本方針についてしばらくは毎月一回集まって審議し、大阪大司教区の指導を受けながら、最終的には評議会へ答申し、結果を大司教へ提出することになっています。皆様のご理解、ご協力とお祈りをお願いします。

神戸・越冬越冬に参加して

12月28日から1月5日までの9日間、神戸市役所の南側、噴水のある東遊園地で、恒例の越冬活動が繰り広げられました。野宿者にとって一番厳しいこの時期を皆で頑張り、支えるための活動です。炊き出しに関わっている各団体が毎日日替わりで担当しています。今年はボランティアを含めて一日平均210名ほどの利用がありました。昨年より幾分減少しています。この期間には毎日、生活相談・医療相談・散髪が行われ、おじさん達が利用しています。

今年は夜間中学・高校の先生が参加され、“何らかの理由で勉強が出来なかった方、その気さえあれば今からでも遅くないですよ”と再チャレンジをアピールされていました。おなじみ“近藤亭”ご主人の生カラオケ、シリロ神父様のパエリア、書初めなどのお楽しみもあります。おじさん達は誰にも気兼ねなく4時まで公園でのんびりと過ごします。お正月を挟んでの忙しい時期にもかかわらず、ボランティアさんも沢山参加してくださいます。おじさんも一緒に料理を作り、一緒に食べて、一緒に片付けます。自主的に働くおじさんが本当に増えました。自分達も働きたい、役に立ちたいと思っているのです。私はボランティアさんの多くが食事の片付けが済むと、帰ってしまわれることを残念に思っています。食事を作りお腹を満たしてあげることは大事な事だと思いますが、傍で話を傾けることもこの期間しか出来ない大切な事だと思います。誰かと話をしたいと思っているおじさんは沢山います。そのきっかけを作れないでいるから、こちらから話しかけてみるのです。ポツポツと話を始め、野宿に至った経過を話す方もいます。誰かに聞いてもらいたいのでしょうか、そうやって自分自身の気持ちを整理しているのかなと、相槌を打ちながら聞く側に回ります。身体を壊さないように、一人でも多く野宿から抜け出せるようにと願いつつ、「元気でね！また来年ね！」と笑顔で別れます。



(長瀬)



各教会のボランティアの皆さんは、寒風吹きすさぶ元旦もお餅をついて、野宿生活の皆さんにいいお正月を迎えていただこうと頑張りました。





社会活動部2月活動予定表

| 日 程 | 開催時間 | 内 容 |
|---------|-------|--|
| 6日 水曜日 | 10時AM | <u>手芸の集い</u> 第1・2会議室 どなたでも参加ご自由です。 |
| 9日 土曜日 | 10時AM | <u>炊き出し(イグナチオお台所)</u> 小野浜グラウンドにて配食や、おじさんたちとのお話し相手だけでもOKです。 毎月第2土曜日 |
| 16日 土曜日 | 13時PM | <u>シナピス体験学習(垂水教会)</u> “見えないってどんなこと” 講師：森 一成 氏(神戸アイライト協会理事長) |
| 20日 日曜日 | 9時ミサ後 | <u>手作りコーナー(イグナチオホール)</u> 第3日曜日9時ミサ後 お弁当・食品・手作り小物等の販売 |
| 25日 金曜日 | 14時PM | <u>おにぎり作り(イグナチオお台所)</u> 須磨方面夜回り支援 |

シナピス神戸・体験学習

2月16日(土) 場所：垂水教会 13時開催

“見えないってどんなこと”(詳しくはちらしをご覧ください)

シナピス神戸・静修会

3月1日(土) 場所：聖ヴィンセンシオ愛徳姉妹会(655-0046 神戸市垂水区舞子台8-20-1)
(詳しくは、後日ちらし等でお知らせいたします。)

3月7日(金)初金ミサ後、「社会活動部連絡会」を予定しております。関係者各位には、後日郵送等にて詳細をお知らせさせていただきます。よろしくお願いいたします。

三日月会の皆様へ

昨年12月に三日月会主催の喫茶コーナーより、売上金の一部を社会活動部に活動献金にと桜井神父様を通じて戴きました。ご協力ありがとうございました。

【典礼部より】

聖週間の典礼準備について

聖なる過越の3日間のリハーサルを3月16日(日)14:00より大聖堂で行います。

被洗足者は、三日月会2人、壮年会2人、婦人会2人、
青年会1人、教会学校・子供2人、リーダー1人、
中高生会2人をお願いすることになりました。

聖週間の典礼当番表は、掲示板に掲載しますのでご確認ください。



昨年の洗足式

【『カトリック教会のカテキズム』を読む会】

「聖霊の交わりの中で」とは



ミサの祈りの中に、「聖霊」はたくさん出てきます。恥ずかしいことですが、ぼんやりと見過ごしてきたように思います。あるとき友人から「『聖霊の交わりの中で』とはどういう意味?」と聞かれました。答えることができませんでした。すぐ近くにいたある神父様に助けを求めました。神父様は、そんなことも知らないのかと言う顔をされましたが、「ほんとに知らないの」とおっしゃったきりでした。

カテキズムの中で、聖霊について書かれた項を読んでいくうちに、私たちの共同体に働く聖霊について教えられ、少しずつ解ってきたように思えます。カテキズムの中の随所にそんなことがあります。煉獄、天使そして悪魔、こんなことを今教会はどう教えているのか。

『カトリック教会のカテキズム』を読む会は二周年を迎えます。やっと 378 頁まで読むことができました。必ずしも連続性は要求されません。どこかの部分だけ一緒に読んでみてもいいと思います。毎月第一日曜の 9 時のミサのあと (10:15~12:00) 開催しています。読む部分のプリントをその都度用意しています。お時間のあるときにご参加ください。(桐原)

📖 図書紹介

『いま、聖書をよむ』 高柳 富夫 著 (梨の木舎 2004 年)



日本キリスト教団中野桃園教会牧師である著者は、旧約聖書の専門家です。この本は、5 回の公開講座の講義を原稿に起こしたものですから、読みやすい文章になっています。

創世記の第 1 章から第 11 章までを原初史といいますが、ここの部分はアブラハム登場前の、いわば全人類の起源について語られています。聖書全体の最初ですから、神からの大事なメッセージが凝縮していることが想像できます。しかし、今までなされていた理解には不十分さがあることを著者はいくつも指摘しています。

「神の似姿」である人間は、「神と相通じる本質」を与えられていること。バビロニアの神話では、「神にこき使われる卑しい存在」でしかなかったのに対し、「人間の尊厳」を強く訴える人間の起源を主張していること。

女の創造は、「彼と向き合う助け手」と訳すことがふさわしいと説明し、「向き合う」ことに男女の関係の本質があるとします。すなわち、「向き合う」ための関係は、見上げるのでも見下ろすのでもなく、対等であることが「向き合う」ための関係であること。そこに男が先だとか、女は男の助手みたいなものだなどという考え方は存在しないこと。

この本は、多くの人に「はじめての原初物語の意味がわかった!」と感じさせる内容がたくさん書かれています。是非お読みになることをお勧めします。(吉村)

主任司祭の地平線

昨今は、“信徒中心の教会”と叫ばれてきましたが、次第に実質を伴う姿に成長しつつあるように感じています。教会法典も次のように宣言しています。『すべてのキリスト信者は尊厳性においても行為においても真に平等であるから、皆それぞれ固有の立場と任務に応じて、キリストの体の建設に協働する』(第208条)。即ち、信徒・修道者・司祭が上下関係にあるのではなく、立場と任務を異にしながら共に協力して奉仕するのが、教会の本来の姿であると思います。しかし、日本では司祭・修道者が減少し高齢化しているのが、信徒の責任や役割が今まで以上に大切になってきました。そして、人間社会の在り方自体も変化し、私などは昔の化石になっていくような想いです。

意識の転換は、まず司祭・修道者に必要かも知れませんが、イエズス会ではその目標を含め、今年7月に教会関係の全会員と幾名かの信徒・修道者が広島に集まって“教会フォーラム”を開きます。これからの10年を展望し、「信徒の教会」について話し合い、理解し合い、希望をもって進めて行くためです。具体的には、六甲教会が信徒による聖体奉仕、集会祭儀、求道者を信仰にまで導くカテゴリースについて、広島・山口の教会がグループ・家庭集会などの小共同体における信徒の役割とその養成について、東京のイグナチオ教会が現代の諸問題(外国人との共存共生、若者への宣教、障害者への係わりなど)を担当します。私たちは聖霊に導かれながら、「主の教会」の意義や使命を深めて行きたいと思っています。どんな時代になっても、信仰・希望・愛が最高の道であることを確信しながら…。

新成人のみなさんへ贈る言葉

新成人のみなさん、成人おめでとうございます。今までの僕の経験の中から、新成人のみなさんにお伝えしたいことを文章にしてみたいと思います。

僕が成人を迎えたのは7年前になります。当時は大学に入ったばかりで将来どうなるかまだ漠然としていたので、とにかく大学の授業に出て、友達と遊んで、教会に行って、リーダー活動をして、バイトをして……いろんな経験を広げていたころでした。当時、僕は工学部で理科の実験や勉強をしながらも、教会学校のリーダーとして子どもたちとたくさん関わっていました。理科の勉強とリーダー活動という一見バラバラな2つのことは、それから数年して、まるで点と点がつながるように、「理科が得意な小学校教師になりたい」という思いとしてつながっていきました。

みなさんも、今は一見バラバラに見えるさまざまな活動や経験が、気がついてみれば、点と点がつながるようにつながっていた、という体験をこれからしていくと思います。だから成人を迎えた今、20歳のみなさんにしかできない、いろんな活動や経験にどんどんチャレンジして、後々つながっていくはずの「点」をどんどん増やして行って欲しいと思っています。そしてもしチャンスがあれば、みなさんと一緒に活動したり、あるいは一緒に何かを経験したりして、お互いの「点」を増やす機会を持てることを、心から楽しみにしています。

(三澤)





各会 新年会



壮年会、婦人会が親睦を深めるため、夫々新年会を行いました。

壮年会

婦人会

1月27日(日)12時半より信徒会館2階で新年会が行われました。30名のメンバーが集まり、安芸神父、コリンズ神父、マシア神父にも出席いただきました。昨年新たに壮年会に入られた方の内、6名(紙谷、大熊、宮根、飛石、佐伯、千原均さん)が出席され、夫々から自己紹介いただきました。新しい仲間が沢山増えて新年から嬉しいことです。

新年度から“聖堂の掃除当番”を壮年会として1班登録することを満場一致で決めた後懇親会です。ビールにお酒、お寿司にサンドイッチ、おつまみで口が滑らかになったところで、参加者全員によるスピーチです。流石に多士済々の六甲教会壮年会メンバーです。教会への関わり・苦労話し、教育、信仰、美術・芸術などなど幅広いスピーチでした。

最後に、安芸神父から、「“壮年会は愉快で楽しくなければならぬ”との元壮年会会長志水さん(故人)の言葉が今でも思い出される。」と云う話を聞き、今日の壮年会はまさしくそうであったと思った。「VERITAS IN VINO(酒に真実あり、酒を飲んでこそ本当が言える)」との挨拶を頂き、お開きとなりました。

(壮年会 川合)

1月18日(金)「婦人会新年会」が行われました。参加人数59名。桜井神父、オマリー神父、安芸神父の3名も参加下さいました。美味しい昼食を舌鼓、余興に入りました。

世界3大エンターテイメント、安芸神父のカンツォーネ、オマリー神父の声量溢れる軽快な歌に酔いしれた後、桜井神父と羽根突き大会。桜井神父の圧勝でした。

罰ゲームは歌、竹馬乗り又はフラフープ披露です。竹馬を上手に乗られ拍手喝采。フラフープを回すのは難しい(歳のせい、腰の括れが...)ようでした。桜井神父の罰ゲームは歌を披露されました。次に2種類のビンゴゲーム(9マスに首都名を書き込むものと聖人名を書き込む)をグループ対抗で行い、景品をゲット!最後に十河さんの指揮の下、歌を3曲歌い、盛会の内に終了しました。返す返す残念なのはスナップ写真を撮り忘れたことです。

今年参加できなかった皆さん、来年はぜひ参加され桜井神父を負かしませよう。

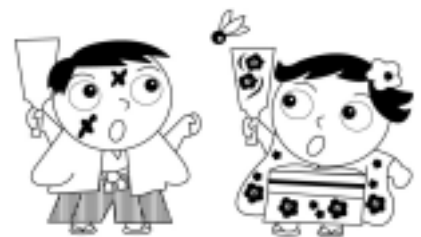
教会新年会とは違ったひと時を持ち、親交を深めて頂けたのではないのでしょうか。

この会を盛り上げて下さいました3人の神父様と参加下さいました皆様に感謝致します。

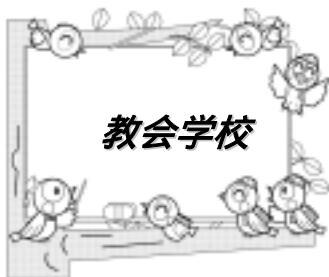
(婦人会 役員)



今年も教会の為に力を合わせよう!! “乾杯!”



桜井神父も婦人会の皆様もこんな時代がありました。



教会学校

子供たちと歩んできた30年

リーダー 阿部



イエス様は、弟子達が幼い子供を追い払おうとしたのを止め、「幼な子たちを抱き、彼らの上に両手を置いて祝福された。」(マルコ10章16節)と聖書に書かれています。何と微笑ましい場面でしょう。私が教会学校のお手伝いをさせていただくようになって30年も経ってしまいました。イエス様に愛されている子供達と関わって、本当に沢山のお恵みを頂いたと、心から感謝しております。

主任司祭はいつも「子供を大切に」と言って下さいます。子供を大切にするとはいくことでしょうか。教会学校の果たすべき役割は?と考えると、その重大さをひしひしと感じます。

まず忘れてはいけないのは、子供は「子供達」とひと括りで言うてはいけない存在だということだと思います。1人1人が神様の子供として生まれ、1人1人名前を呼ばれて、イエス様に愛されている存在なのです。そう思って1人1人に向き合うと、夫々が独立したユニークな個人であることが分かります。皆独自の良い所、宝を持っています。大人はそれをちゃんと見つけなくてはいけないと思います。そして、子供達同士も互いに認め合うよう導かなくてはなりません。

とにかく、学校成績だけで人を評価してしまう世の中で、1人1人の真の価値を見つけ、育むところ、それが教会学校だと信じてやってきました。もしかしたら、ご両親でさえ成績簿ばかりに眼が行っているかも知れません。そんな親御さん達にも、もう一度ご自分のお子さんをよく見て下さいと言いたいのです。

成績簿もなく、比較したり、裁いたりすることのない学校が「教会学校」です。神様の子供達をお預かりして、のびのびと持ち味を發揮してもらおう所、そんな場を作り続けて行きたいと思っております。

いつも子供たちの元気で、明るい笑い声が響きわたる教会であって欲しい!!



夏のキャンプ



お餅つき

たくさんの行事に参加して.....



初聖体と祝福式



プチトマトの演劇

2007年 1 年間の信徒動静

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 計 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|
| 転入 | 3 | | 6 | 6 | 1 | 3 | 2 | 1 | 2 | 9 | 2 | 2 | 37 |
| 転出 | 6 | | 5 | 2 | 3 | 1 | 4 | 1 | 4 | | 2 | 3 | 31 |
| 受洗 | | | 9 | 15 | 3 | 1 | 6 | 1 | 1 | 1 | 1 | 15 | 53 |
| 帰天 | 4 | 3 | 1 | 1 | 1 | 5 | 2 | 2 | | 1 | 1 | 2 | 23 |
| 結婚 | 1 | 1 | | | 1 | 1 | | | 1 | 2 | 1 | 1 | 9 |

現在の信徒数は2,374名(男性 899名、女性 1,475名)です。

広報部員のつぶやき

早いもので、新年を迎えたと
思っていたら、一月もあつと云
う間に終わってしまった。
今年こそはと、いつも年頭に
誓いを立てるのだが、あれこれ
考えているうちに、無常にも日
時は経ってしまう。

先日の壮年会新年会で、八十
八歳(米寿)のS氏は、先立た
れた奥様愛用のピアノに向か
い、モーツァルトを弾けるよう
にチャレンジを始めたとおつし
やられ、ついでに覚えたての歌
をドイツ語で独唱された。発音
はともかく、それらしく聞こえ
たのは、その人の情熱のなせる
わざか。

人はいつか天国に召される
が、それまで「自分の人生をど
う生きるか」、「自分の中心はど
こにあるのか」、四旬節を迎える
に当たり、もう一度考え直して
みたい。

そして、今月の巻頭言にある
「信徒の教会になるために」は、
我々信徒に投げかけられた大き
な課題ではないだろうか。

教会報3月号の発行は、3月2日(日)です。

編集会議は2月23日(日)です。

記事原稿は2月20日(水)正午までに信徒会館事務室
へご提出願います。(広報部)

<http://www.rokko-catholic.jp>

カトリック六甲教会

〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21
電話 078-851-2846
発行責任者 桜井彦孝 神父
編集 広報部